

さくら 紅葉 海

おおす てくてく MAP

大洲 番神

～文化を育む歴史のまち～

大洲地区の案内



お問い合わせ先
事務局 大洲コミュニティセンター

〒945-0847 柏崎市赤坂町3-14
電話・FAX 0257-24-4787

平成28年3月発行

さあ、出発！

P
スタート!!

夕日の森公園
駐車場

1 戦没者慰霊碑

太平洋戦争で亡くなった柏崎市内の2600人の英霊のために柏崎市遺族会が1965年に建てた慰霊碑。縦6×横8×厚2.5mの巨大な石に「慰霊碑」と刻まれている。

2 諏訪神社(番神)

拝殿の龍は今にも飛び出しそうに見える素晴らしい彫刻である。

裸石大明神は裸石としては県内最大級の大きさを誇り、子宝・縁結び・夫婦和合などの信仰で知られている。

悲恋物語「佐渡情話」の「お光吾作の碑」があり、その横には与謝野晶子がこの話を歌った歌碑もある。

3 番神堂

お堂

日蓮上人の像

流罪になっていた日蓮聖人が1274年に佐渡から戻る際に、寺泊に上陸する予定が嵐にあい、柏崎の番神岬に流れ着いた。(番神岬の日蓮着岸の碑)

当時、番神堂は真言宗のお寺だったが、日蓮聖人に深く帰依した住職が、日蓮宗に改宗した。日蓮聖人が法華経の守護神三十番神を自らまつたことから「番神堂」と呼ばれるようになった。

除夜の鐘つきが有名で、多くの人が初詣に訪れる。早咲き桜と梅の木があり、ここから見る柏崎の景色は絶景！

本堂の周囲には細かい彫刻が施されていて、一か所だけある蝶の彫刻を見つけれたら幸せになれると言われている。

蝶の彫刻

4 波切り不動尊

番神堂への石段の中腹に小さな祠がある。日蓮聖人が嵐にあい佐渡から柏崎へ流れつく途中で、舟の安泰を不動尊に願ったという言い伝えがある。

それに因んで「海上安全」「大漁祈願」が今でもされており、漁師をはじめ地域の人々が信仰している。

ちょっと足をのばして

健脚の人向け

日蓮も見た絶景の道

番神は、鎌倉時代中期頃、日蓮宗を開いた僧侶 日蓮聖人が流れ着き、多くの影響を与えた街です。

潮の香りを感じながら、日蓮が見たであろう絶景を楽しみましょう！

歩く距離 約2km
(所要時間1～1.5時間)

三ツ石海岸跡

かつてこの一帯は遠浅の海岸で、大勢の海水浴客でにぎわっていた。

1965年からの柏崎港の拡張整備により海岸は埋め立てられ、港湾施設と港公園に生まれ変わった。周辺には岩の名残が残っている。

5 閻王寺跡

貞心尼が剃髪し、23歳から6年間修業をした大久保の西光寺の末寺である。お寺は⑦毘沙門天堂の位置に移り、現在、建物は無い。

後生車は、念仏を唱えながら車石を回すと、願いが叶うと言われている。

6 下宿村道路標

下宿村を通っていた道路を示すもので、下宿村があったことを現代に伝える唯一のものである。

下宿村は、1924年に大洲村とともに柏崎町に編入された。

7 毘沙門天堂

⑤閻王寺がここに移ったと言われている。貞心尼を指導した尼僧 眠龍・心龍のお墓があったと伝えられている。

8 地藏堂

お堂に、市内一の高さ2.5mの大きな地藏尊が安置されている。境内には、数多くの石仏や石塔等が立ち並んでいる。

たどり着いた～

ゴール!!

夕日の森公園
駐車場

P



勝之助が歩いた道 ―歴史社寺― A ～ G

大久保は江戸から明治時代初期にかけて、柏崎地域の政治の中心でした。「柏崎日記」を書いた渡部勝之助が当時歩いたであろう道をたどります。

歩く距離 約3km
(所要時間 1.5～2時間)

さあ、
出発！
スタート！！

A しょう がん じ
勝願寺



柏崎が戊辰戦争の戦地になった鯨波戦争(1868年)に先立って、桑名藩主松平定敬がしばらく滞留した真宗大谷派のお寺である。当時、桑名藩(現在三重県桑名市)が柏崎を治めていて、境内には藩主揮毫による戊辰戦争で亡くなった桑名藩士の墓がある。松平定敬が書いた山号額「大藤山」や桑名藩ゆかりの品が残されている。
1847年の本堂再建後10年程して建築された茶室「環翠軒」は、柏崎の豪商で茶人の松村宗悦の指導のもと造られた。(市文化財指定第1号)

B とよ す じん じや
豊洲神社



桑名藩主 松平定敬が孝明天皇にお願いして、1865年に社号を諏訪神社から「豊洲神社」と改めた。これにより、社殿の屋根に、菊の紋章が掲げられている。現在の社殿は、中浜出身で日本の近代建築の先駆者である内山熊八郎が多額の寄付と建築設計をして、昭和初期に建てられた。
本殿が拝幣殿の後ろに建っており、本殿を普段から見ることができる珍しい神社である。現在も、春・秋に神楽舞が神楽殿で行われている。

C か し わ た い じ ゃ あ と
柏の大樹跡



「柏崎」という地名発祥の地と言われている。鵜川河口辺りに大きな柏の樹が1本あった。この樹が海に出た漁師の目印となり、いつからか「柏の崎」と呼ばれるようになり、そこから「柏崎」と名付けられたという説がある。

D こ ん び ら ぐ う こ く ぞ う じ
金比羅宮・虚空蔵寺



虚空蔵寺は1789年に創建された曹洞宗のお寺。お堂には本尊の虚空蔵菩薩と海の守り神である金比羅宮もまつられていて、神仏習合のお寺である。昔は、船乗りや漁師がお参りしたり、例祭が開かれたりして賑わっていた。

E か し わ ぜ き し ん や あ と か し わ ぜ き けん ち ょ う あ と
柏崎陣屋跡・柏崎県庁跡



柏崎陣屋は、1742年に白河藩(現在福島県白河市)が領内221の村を支配するために作られた約9,000坪の面積の役場で、約126年間続いた。1823年からは桑名藩(現在三重県桑名市)が飛び領として幕末まで治めていた。柏崎が桑名藩に納める年貢米は、全体石高の半分余を占めていて、柏崎は桑名藩にとって重要な場所であった。

天保の大飢饉に対する役人の無策に腹を立て、大塩平八郎の乱に触発された生田萬を筆頭とした同志と農民が、柏崎陣屋に討ち入る事件が1837年に起きた。(生田萬の乱)

明治維新後、柏崎陣屋には柏崎県庁が置かれたが、1873年に新潟県に編入され役割を終えた。三重県指定文化財の「柏崎日記・桑名日記」は、桑名から赴任した柏崎陣屋役人 渡部勝之助と国元の父がそれぞれの生活の様子を日記に、交換していたもので、直筆本が桑名市で保管されている。柏崎市立図書館でその翻刻版を見ることができる。

F せい こう じ
西光寺



1467年に創建された浄土宗のお寺。時宗の最光寺が市内横山から現在地に移った際に、改宗し「西光寺」と改名した。京都の大徳寺上人が揮毫した茶人 松村宗悦の墓のほか、初代県議会議長の松村文次郎、衆議院議員で北洋漁業と沿海州の航路開拓の功労者である関矢儀八郎の墓と顕彰碑などがある。
朱色の鐘楼門から見下ろす鵜川河岸は「鐘が淵」と呼ばれ、境内には「虎とり地蔵」、「上方詣りの松」などいくつかの伝説が伝わる。

G び ゃ く じ
極楽寺



849年開基。1300年浄土宗となる。2011年に本堂・山門・鍔絵の経蔵・庫裏・鐘楼すべて国登録文化財となる。本堂上がり段の「擬宝珠」や山辺に並ぶ「賽の神」「おこり地蔵」なども目を引く。柏崎日記を書いた渡部勝之助や商人中心の塾「十六堂」を継いで人材育成に努力した原修斎などの墓所もある。貞心尼との縁もあり、遺墨が残されている。
刺繍の掛け軸「観経曼荼羅」と「涅槃像」は市の文化財で、秋のお彼岸に一般公開している。



ゴール！！
赤坂山公園
第4駐車場

さくら・
紅葉の道
赤坂山公園周辺には、
自然がいっぱい！
石碑もあるので、
探検してみよう。

産業夜明けの道 ―産業― 1 ～ 5
大洲の地から柏崎市を代表するまでに発展した産業や人物を見ていきましょう。
歩く距離 約3km
(所要時間 1.5～2時間)

1 お お く べ ち ょ う ぜ ゃ う あ と
大久保窯業跡



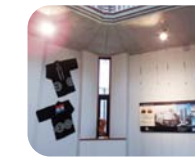
粘土などを窯で焼いて瓦、レンガなどの焼き物を作ることを窯業という。
大久保窯業は明治初期から終戦頃まで大洲小学校グラウンド脇や緑ヶ丘周辺で行われ、諏訪神社(大久保)、旧信越本線トンネルや日石加工倉庫等に使用された。また、瓦職人の技術を生かした陶器や天神人形等の通称「大久保焼」が作られた。
交通機関の発達で他地域から瓦やレンガが入ってくるようになり、その製造は衰退したが、のちに鉄工やコンクリート産業につながっていった。

2 は ら た く ぜ い ど く さい せい ち あ と
原琢斉・得斉生地跡



柏崎・大久保 鑄金の祖といわれる原琢斉(1809～91)と原得斉(1831～67)兄弟の生地跡である。
鑄金とは、高い温度で溶かした金属を型に流し込み、冷えてから型を割って取り出した製品のこと。主に鍋、釜、お寺の梵鐘や塩釜が作られ、江戸初期から中期にかけて最も栄えた。幕末期になると衰退したが、この兄弟が蠟型鑄金技術による美術工芸品の分野を開拓し、新しい活路を切り開いた。

3 い が ら し き ね ん か ん
五十嵐記念館



大洲小学校内にあるため、敷地外から眺めてください。
五十嵐冷蔵(株)創始者の五十嵐與助の寄付により建てられた大洲小学校の図書館。與助は1878年に中浜で生まれた。柏崎を離れ、水産事業で成功を収めた後も故郷を愛し、柏崎港や豊洲神社建設などに多大な寄付をした。
與助が寄付した新潟病院周辺の山を切り開き整備した道路は「與助道路」と呼ばれ親しまれている。

4 う す い け ゃ う
雨水ポンプ場



周辺区域に流入する雨水を鵜川へ強制排水する施設。
元々、鵜川右岸の柏崎駅周辺及び枇杷島地区は地盤が低く自然排水できず、激特事業の工事後も大雨が降ると、鵜川に流れ込む周辺の小河川が度々氾濫したため、約54億円をかけて建設された。
うかわせんげきんさいがいだいさくどくべつせんきやうせいびじやう
鵜川河川激甚災害対策特別緊急整備事業
略して「激特事業」と呼ぶ。1978年に豪雨により鵜川が氾濫して大きな被害が出たため、大久保で大きく蛇行する鵜川を直線化する工事を行なった。水道橋公園に激特事業の詳しい説明板がある。

5 は ら せ ゃ う え せん こ う ば う
原惣右工門工房



原得斉の技術を継承した大久保鑄金の工芸家、4代目原惣右工門の工房。
無形文化財の県指定を受けている蠟型鑄金や斑紫銅の技術で、花びんや茶たぐ等の作品を今も作り続けている。
工房見学ができます。(要予約)
電話 0257-22-3630